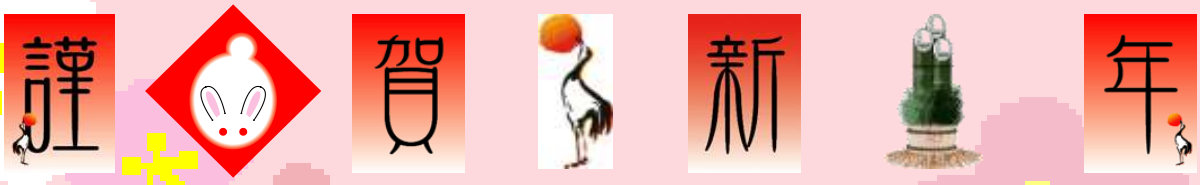
私たちは、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として
「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療を行ないます。

八 幡 青 樹 会 病 院　季刊広報紙

平成２３年１月５日 発行
発行責任者　広報委員会
地域連携室
連絡先　医療社会事業課　0748-33-7104

青葉の風

第２６号



～ 八幡青樹会病院ニュース ～

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

バブル経済崩壊以降は厳しい社会情勢の中、自殺者は毎年３万人を超えており、その内約３割の方は失業や生活苦を理由に亡くなられています。このような状況において地域の精神科医療の重要性が益々高まっています。

当院におきましては昨年に病院機能評価の更新審査を受審いたしまして無事に認定を受けることができました。これを機に地域の医療機関としてより一層、良質で信頼できる医療の提供を全職員が一丸となって取り組み続ける所存でございます。

本年もよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

財団法人青樹会病院　八幡青樹会病院　院長　由利　和雄　職員一同

☆◎□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎

文化祭・模擬店を開催しました。

作業療法士　中岡　圭

今年も文化祭・模擬店を開催しました。残念ながら一部の患者様には感染予防のため、参加を自粛して頂きました。しかし、参加人数は昨年よりも多く、例年以上の賑わいとなりました。模擬店では、大判焼き、たこ焼き、フランクフルトなど美味しそうな香りを漂わせており、ついつい購入してしまった患者様も多かったのではないでしょうか。

模擬店が賑わう一方で、文化祭にも多くの方が訪れました。作品展示や７病棟「写真クラブ」の展覧会には目を奪われました、特に作品コンクールでは金賞「夜空のメリークリスマス」を始め、力作が多かったように思います。

昨年よりも今年、今年よりも来年･･･と、皆さんに楽しんで頂けるように計画中です。ご期待してください。

クリスマスのイベント

作業療法士　横田　治

２０１０年１２月２３日（木）

クリスマスのイベントとして、賛美歌の合唱とハンドベル演奏に近江兄弟社学園の生徒さん１４名と先生４名が来院されました。以前から何度かこのようなイベントを提案していただいておりましたが、久しぶりの来院で、入院患者様だけでなく職員も透きとおるような歌声とベルの音色に、しばしの間こころ癒されクリスマスの雰囲気を堪能しました。また来年も来ていただけることを願っております。

☆◎□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎

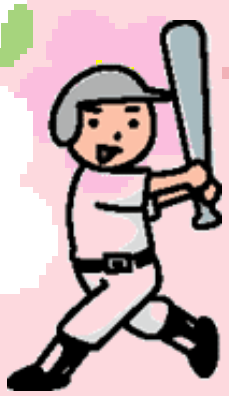
青樹会病院野球部だより　今年度の総括と報告

野球部主将　幸池　達郎

日頃から野球部の活動に対し、職員の方々の御理解・ご協力をいただき充実した野球部活動が行えたこと、野球ができる環境を提供下さった事に野球部一同心から感謝いたしております。

今年度、青樹会病院野球部は、９月 18 日から東京都で開催されました、天皇賜杯全国軟式野球選手権大会、９月 26 日から千葉県袖ケ浦市で開催されました国民体育大会(ゆめ半島千葉国体)、10 月 31 日から沖縄県で開催されました西日本選手権大会、11 月 12 日から愛知県で開催されました中部日本都市対抗軟式野球大会と、毎年の目標としています大会すべての全国大会への出場を果たしました。

天皇賜杯では、ベスト８をかけ、昨年の国体で快勝いたしました京葉銀行(千葉)と対戦致しましたが、延長の末、敗退いたしました。国民体育大会では地元千葉県に２回戦で敗退、西日本選手権大会では前年度優勝の大阪市信用金庫と対戦し、延長 14 回の末惜敗しましたが、野球部初のベスト４と健闘致しました。中部日本都市対抗選手権大会では敢え無く初戦で敗退致しました。



毎年のように上位進出・優勝目指して取り組んでまいりましたが、2011 年は今年の悔しい思いをばねに、全員野球で全国優勝目指して頑張りますので、皆様のかわらぬご声援を宜しくお願い致します。

☆◎□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎☆□○☆○☆□◎☆□○☆□◎

心のエッセイ〖気になる言葉　自己責任・責任〗

副院長　山本　大輔

近頃、「自己責任」という言葉をよく耳にしますが、この言葉が、人を追詰めたり、人の心を蝕んだりしているように思うことがよくあります。他人に対して、特に社会的弱者（この言い方もあまり好きではありませんが）に使うのは、避けた方がいいのではないでしょうか。なぜなら、この言葉は「生きるも死ぬもご自由に、ただしどちらにしても他人には迷惑をかけないように」という考えに裏打ちされていると感じているからです。

一方、「権利」という言葉は、他人の権利を認めそして尊重するというような使い方をしたほうが、“自分”の権利を主張するといった使い方の場合より健全な感じがします。とにかく自分の権利を主張しないと生きていけない社会というのは、とても、ふところの狭い窮屈な社会だと思うからです。皆さんはどのように思われますか？

もうひとつおまけ。マスコミ（ジャーナリズム）などで、庶民の医療に尽くす「赤ひげ」を医者のあるべき姿のようにたたえるのも政治の欠如を個人の努力・犠牲で捕えといわれているようでとても嫌な気分になります。年をとるとなんだか愚痴っぽくなっていけませんね。ご勘弁を。これでおしまい。